

**令和2年度
自己評価・取組みの概要**

令和3年3月31日

御茶の水美術専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2
基準 2 学校運営.....	3
基準 3 教育活動.....	4
基準 4 学修成果.....	5
基準 5 学生支援.....	6
基準 6 教育環境.....	7
基準 7 学生の募集と受入れ	8
基準 8 財務	9
基準 9 法令等の遵守.....	10
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	11

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和2年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>【建学の精神】 「世界に文化で貢献する」</p> <p>1955年の創立以来、建学の精神でもある「世界に文化で貢献する」を教育理念として軸に据え、学園運営の戦略、及び戦術の決定を行っている。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業編成の基本事項としてデザインやアートといったクリエイティブスキルの指導、マーケティングやプランニングといったビジネススキルの指導を行い、本校独自の創造性教育を強化しつつ、実社会で役立つ思考力、判断力、表現力の育成を目指す。 学生のクリエイティビティーを尊重しながら、プロジェクトベースドラージング (PBL) として産学連携のフィールドワークを繰り返し、多様な業種や職種の人材と関わり、協働しながら、その知見を獲得する機会を設け、且つ増やすことを目指す。 情報を視覚化することで、多様な人材間でのコミュニケーションを円滑にし、市場のみならず自分達のニーズやウォンツを的確にプレゼンテーションできる人材の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携授業の強化と PBL の充実を図る。企業との交流を通じて学生の進路選択の幅を広げ、進路実現後もキャリアアップを支援する体制を整える。 本校のカリキュラム・ポリシーを堅持し、その運営の円滑化に向けて教職員が主体的かつ柔軟に対応し得る業務体制の再編・整備を行う。インターナルブランディングの一環として教職員を対象とした SDGs 研修を実施し、学生と共に本校教育方針の教職員全体での理解を促進する。 アドミッション・ポリシーにあるクリエイティブと PBL を通じて「社会をよりよく変革」することを目指す人材を WEB サイトや学校案内書等に明示し、広く全国から「想像力」、「行動力」、「継続力」を持つ人材を確保する。授業内容をわかりやすく明示することにより本校の競合優位性を確立するとともに、全国規模での広報活動を活性化させて本校の支持者・入学希望者の増加を狙う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、世界的なパンデミックの影響を強く受けた。特に学事日程の前半は、日本政府の緊急事態宣言の発令により学生が登校できない状況に陥った。しかし早期のオンライン授業への切り替えにより、学修機会の喪失は免れた。 緊急事態宣言後、徹底した感染症対策のもと産学連携授業を中心に対面授業を迅速に再開した。第1期の成果発表会は8月に延期されたが、残りの3期は学事日程通りに、授業運営、成果発表共に行われた。 オンライン授業と対面授業の双方を目的別に使い分けるハイブリット授業の運営により、カリキュラム・ポリシーは堅持されたが、この対応に教職員を集中させる必要性から、研修会は延期され、参考図書の配布のみとなった。 パンデミックの中、対面型の学校説明会をオンラインに切り替え、別に進路相談のチャンネルも開いた。その結果、入学者選考では、本校のアドミッション・ポリシーをきちんと理解した志願者を迎えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 依然として世界的なパンデミックの収束がはっきりと見通せない中、今後もハイブリット授業を継続し、感染拡大と収束の双方に備える必要がある。しかし、パンデミックが学生の心理面に与える負の影響は大きく、次年度は対面授業の割合を増やし、学生にリアルな人間関係を構築する機会を提供し、教職員もこれをバックアップする体制を整える必要がある。 産学連携授業は、特に成果発表会において、クライアント別にオンライン、時間短縮、人数制限などの対策のバラつきが見られた。しかし、これは業種別の行動変容をライブで体験する貴重な機会であり、学生のプレゼンテーションもオンラインや対面など、様々な場面を想定した柔軟な指導が必要である。 パンデミックの中、対面授業とオンライン面談の有機的な活用により、学生個別のポートフォリオ指導が行き届くようになり、内定率が上昇した。今後もこのノウハウを磨く必要がある。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 教育理念 服部学園では、1955年の創立以来、「世界に文化で貢献する」という建学の精神を教育理念の中核に据えた授業編成を心掛けてきた。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとあわせ、学校案内書、WEBサイト等で広く周知してきている。</p> <p>2. 育成人材像 教育課程編成委員、学校関係者評価委員、産学連携パートナー、国連グローバル・コンパクト加盟団体等の協力を得ながら、社会の人材ニーズに適合しているか点検している。本年度より日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）賛助会員となり、積極的に関連業界の情報収集を行っている。</p> <p>3. 教育活動 ゼロワーク®プログラムという、本校独自の授業編成を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインアート思考® ・ロジカルデッサン™ ・日本の専門学校として初めて「国連グローバル・コンパクト」へ加盟 ・産学連携授業 ・PBL ・書籍出版 ・企業研修、等 </p> <p>4. 将来構想 本校では、「産学、官学連携」を軸とした職業教育を1978年より継続して取り組んでいるが、社会の求人ニーズが特定の専門技能を持つ人材ではなく、課題の発見、及び解決を様々な専門技能を組み合わせで行う人材に変化している。そこで本校は、学科をひとつに統合し、学生が課題解決に必要なと感じた学びを選べるPBLを採用し、全学に浸透させている。</p>	<p>1. 教育理念 建学の精神・教育理念の実現の一環として、書籍「デザインアート思考 使い手のニーズとつくり手のウォンツを同時に実現する 10のステップ」（翔泳社／2021年2月）を出版した。ECサイトや書店での販売をはじめ、在校生や保護者・関連業界等へも周知し、理念の浸透を図った。</p> <p>2. 育成人材像 産学連携パートナー企業から求人をいただき、今年度はアルバイト・インターンシップの他、正社員採用、契約社員採用者が複数名でてきている。これは、本校の育成人材が企業の人材ニーズに適合した結果といえる。 【2020年度 産学連携】 <ul style="list-style-type: none"> ・ヴィレッジヴァンガードコーポレーション(株)、(株)カヤック、キリンホールディングス(株)、コマネー(株)、(株)ジェイアール東日本企画、(株)資生堂、(株)Job Rainbow、大正製薬(株)、(公社)日本ユネスコ協会連盟、ピジョン(株)、富士印刷(株)、(公財)プラン・インターナショナル・ジャパン、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(株) </p> <p>3. 教育活動 新型コロナウイルスの影響により登校開始は6月からとなったが、4月からのオンライン授業の導入、十分な感染対策を行った上での対面授業開始と、学生の学修機会を失わせることなく、必修とする全ての授業・行事を予定どおり終えることができた。</p> <p>4. 将来構想 コロナ禍という困難な状況においても「教育活動」を止めることなく行うことができる学校であることを示すことができた。また、コロナ対応を通じて将来構想の新たなヒント・気づきを得ることができた。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 運営方針 運営方針は、教育理念、教育目標、事業計画を踏まえて明確に定めており、教職員等学校運営に携わる者全員に周知している。</p> <p>2. 事業計画 教育理念、教育目標を達成するために、教育方針および課題・実行策などを明示した事業計画を適切に定めている。執行体制・役割分担を明確にし、常にその進捗状況を共有しながら業務を遂行している。</p> <p>3. 運営組織 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき運営している。 また、学校運営組織（総務部、教務部、指導部、キャリア支援室、学生支援課）、ならびに学校運営に関する会議（経営戦略会議、事業推進会議、学園運営会議）等を整備している。</p> <p>4. 人事・給与制度 人事考課制度は、毎年点検しながら運用している。 期初に事業計画に対し、教職員一人ひとりが1年間の目標を設定し、半期毎に進捗確認・評価を行っている。</p> <p>5. 意思決定システム 職務権限規程や稟議規程等、各種意思決定システムを整備している。</p> <p>6. 情報システム 業務の効率化、タイムリーな学生への指導等を目的とした学生情報管理システムのリニューアルを行った。</p>	<p>1. 運営方針 インターナルブランディングの一環として教職員対象の SDGs 研修を実施する予定であったが、新型コロナの影響により参考図書配布による自己学習までとなったが、SDGs の目標達成に向けた学生の提案を数多く聞くことによって、教職員全体での理解が促進された。</p> <p>2. 事業計画 本年度事業計画の執行体制・役割分担を明確にして、事業計画実行管理表に基づいた計画的実行と毎月進捗管理を徹底することにより、ほぼ計画どおり遂行することができたが、出願者数や夜間コース申込者数等の目標については、新型コロナの影響を受けて目標を下回る結果となった。</p> <p>3. 運営組織 昨年の緊急事態宣言期間中、新型コロナ感染防止対策として学内会議をオンラインで実施したが、現在も当校の毎朝ミーティングはオンライン用アプリケーションの特性を活用してオンラインで実施している。</p> <p>4. 人事・給与制度 目標設定・管理をベースとした人事考課制度が教職員に浸透してきており、事業計画をもとに責任者と面談・意見交換を行うことで、教職員の目標達成に対する意識とモチベーションの向上が促進されている。</p> <p>5. 意思決定システム 職務権限の明確化とよりスピーディーな意思決定を促進するため、職務権限規程の新規制定と稟議規程の改正を実施した。</p>

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 目標の設定</p> <p>本校では、実社会で役立つ主体性の獲得を目標に、産学連携授業を通年で実施している。ここでは実際の企業出題への取り組みを通じて、学生が社会のリアリティに触れられる他、企業や顧客、市場の探求を通じて独自に課題設定を行うことで思考力を深め、学生間や学生・社会人間でのミーティングを通じて判断力を養い、プレゼンテーションを行うことで表現力を向上させている。この産学連携授業では、教職員もまた同様の能力の研鑽が求められ、学生の多様性を引き出すファシリテーション能力のさらなる向上を目標としている。</p> <p>2. 教育方法・成績評価・単位認定等</p> <p>産学連携を軸とした創造性教育方式 PBL を通して、実社会で必要とされるクリエイティビティーやビジネススキルを実地で学ぶ方法を取っている。成績評価は、教員が観ている学生の成長性、産学連携パートナーが判断するプロジェクトの実現可能性、年 4 回の成果発表会で招聘される特別審査員による環境や社会への有用性といった視点で行う。単位認定は成績評価の他、授業の理解度を示す提出物、並びに授業態度や出席率が加味される。</p> <p>3. 資格・免許制度の取得の指導体制</p> <p>1 年次のキャリアデザイン授業や上級生の選択授業にて、アドビ認定アソシエイト（ACA）を取得するためのアプリケーション指導を行っている。</p> <p>4. 教員組織</p> <p>3 年間ないし 4 年間を通じて学生の成長を見守り、生活指導を含めた総合的で横断的な立場で指導する常勤講師と、学生個々の必要性に対応した専門的な知識や技能を指導する非常勤講師で編成されている。創造性教育方式 PBL を意識して、それぞれの特性に合わせた授業運営およびカリキュラム設計を行っている。</p>	<p>1. 目標の設定</p> <p>産学連携を軸にした PBL の取り組みを通じて、マーケティングとプランニングからデザインアート思考を学び、年 4 回の課題発見・課題解決の成果発表会をグループワークですすめ、チーム制作と個人制作の両方を経験させた。その結果、在学中の集大成となる卒業制作において、社会的意義を持ちながら自分のウォンツに応えられる企画が例年よりも増え、自分で課題を見つけて解決への行動に移すという結果を示すことができた。</p> <p>2. 教育方法・成績評価・単位認定等</p> <p>学校による教育的観点、企業による利益追求の観点、直接的な利害関係がない特別審査員による第三者評価も加え、成果発表会ごとに公平・公正な評価を実施し、学生たちは多角的な意見を聞くことで多くの学びを得ることができた。また、企業の方との接点を持つことで既に始まっている就職活動をより強く意識させることができた。</p> <p>3. 資格・免許制度の取得の指導体制</p> <p>本年度は新型コロナの影響で学内での ACA 試験は実施できなかったが、試験実施可能な環境を維持し、実施に向けた準備を継続して行った。</p> <p>4. 教員組織</p> <p>専門的知識と技能を教示する非常勤講師と、前後の文脈を理解して包括的な指導を行う常勤講師が連携して、授業を単体で認識せず、つながりを持って取り組むことで効果が上がる運営を行った。その結果、学生の理解が進み、就職活動のスタートが例年より早まるという効果が得られた。</p>

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 就職率</p> <p>週1回のキャリアデザイン授業の他に、就職活動の早期スタートのため、1年次春休みの企業研究レポート課題、学年ごとのステージに合わせたポートフォリオ制作授業の新設、全学年との定期面談、学内での会社説明会を活発に実施している。キャリア支援室では学生の就職活動のタイミングに沿って個別面談やポートフォリオ指導を行い、適宜求人票やインターンシップの紹介を実施することで、機会を逃すことなく支援を行える環境を整えている。しかしながら新型コロナ感染拡大の影響により、インターンシップや採用面接が対面で行われない状況にあり、学生にはオンライン面接指導を強化するなど、こうした状況になるべく円滑に順応できるよう指導を行っている。</p> <p>2. 資格・免許の取得率</p> <p>業界的に求められる特定の資格の取得はないが、クリエイティブ業界のみならず、進路先の多様化もあることから、各人に必要な資格・免許の取得を促している。アドビ認定アソシエイト（ACA）の学内実施が新型コロナ感染拡大防止の観点により順延されたため、本年度中には実施をする。</p> <p>3. 卒業生の社会的評価</p> <p>本校の卒業生は、マーケティング活動に基づいた企画立案能力があり、各人のクリエイティビティを活かした専門技能を習得していることから、課題発見や解決、情報の視覚化能力に高い評価を得ている。こうした卒業生の活躍により、2020年度は、求人票のみならず、企業説明会の申し出が増えてきている。</p>	<p>1. 就職率</p> <p>新型コロナの影響等により多くの企業で採用活動の延期や求人の停止等があったが、キャリア支援室の指導・サポート等により本年度卒業生の就職活動は一定の成果を上げることができた。</p> <p>【令和2年度 卒業生の就職率】 83.3%</p> <p>【令和2年度 卒業生の主な就職先】</p> <p>（株）ガゼボフィルム、タカオ（株）、（株）タノシナル、（株）日本創発グループ、（株）八芳園、P・O・P ホールディングス（株）、（株）まんだらけ、リディアミックス（株）、（株）夢真 他</p> <p>【令和2年度 卒業生の主な職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインアート系 53% <ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザイナー・企画デザイナー、映像クリエイター等 ・企画・営業・販売・事務系、その他 47% <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネージャー、WEBディレクター、総合職、販売等 <p>2. 資格・免許の取得率</p> <p>今年度は新型コロナの影響等により行事を含む様々な変更を余儀なくされたこともあり、ACA 試験自体は実施することができなかったが、試験実施のための準備を進めるとともに、個別面談などでそれぞれの進路に即したACA以外の資格・免許を自主的に取得することを推奨した。</p> <p>3. 卒業生の社会的評価</p> <p>産学連携パートナー企業から学生の企画力や情報視覚化能力が評価され、既卒者のアルバイト採用があったが、市場調査力や企業・商品研究力、動画制作ができるスキル等が高く評価された。また、産学連携パートナー企業から当校に直接求人をいただき、正社員採用が実現した。</p>

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 就職等進路 多くの学生は、就職等による社会での自立を目指している。本校のゼロワークプログラムで培う能力は、アウトプットのデザインに止まることなく、マーケティングから企画・提案までを行うクリエイティブティであり、デザイナーのみならず企画職や総合職など、幅広い視野での就職を目指すことができる。</p> <p>2. 中途退学への対応 学生が抱えている諸問題を早い段階で見つけるために、学期の節目ごとに全学生に対して、個別に面談を行っている。この他、特別に面談が必要な学生には、時に保護者を交えた面談等を行い、生活指導をしている。</p> <p>3. 学生相談 指導部教員、教務部教職員、助手をはじめ、非常勤講師も含めて、日常的なレベルから専門的なレベルまで、学生が気軽に、必要とする相談を行うことができる環境を整えている。</p> <p>4. 学生生活 従来から規則正しい生活を心がけるように指導しているが、今期は新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響で、生活リズムが整わない、アルバイト収入が激減するなどの問題が起きている。</p> <p>5. 保護者との連携 保護者会を定期的に行い、学校への理解とカリキュラムの理解を促進している。また保護者面談も行い、必要に応じ個別の問題点発見とその解決を図り、学校への保護者の信頼感の向上へつなげている。</p> <p>6. 卒業生・社会人 卒業生や社会人対象の夜間コースを、千代田区バウチャー制度を導入して開講するなど、リカレント教育に取り組んでいる。</p>	<p>1. 就職等進路 本年度の就職活動は新型コロナの影響を強く受けたが、キャリア支援室を中心としたサポート等により、2021年3月卒業生の就職率は83.3%、昨年度卒業生の就職率は90.0%となった。現在オンライン面接のノウハウ指導やポートフォリオ制作指導を実施している。</p> <p>2. 中途退学への対応 新型コロナ感染防止対策による授業のオンラン化の影響等により、本年度は例年以上に退学者が出てしまったため、学生ケアのノウハウと相談体制を強化することが当面の課題となっている。</p> <p>3. 学生相談 留学生に対しては、週1回の生活相談を含む日本社会への順応を目的とした授業を行い、就学面や生活上の問題点の早期発見と解決を図った。</p> <p>4. 学生生活 本年1月の緊急事態宣言発令・延期を受けて、感染防止対策をさらに徹底して行うとともに、アルバイト等の収入が減少した学生に対しては行政の学生支援緊急給付金事業等を紹介し、就学の継続を支援した。</p> <p>5. 保護者との連携 本年度保護者会は新型コロナの影響により7月に初めて開催したが、1月の緊急事態宣言発令後は全てオンラインでの実施とした。新型コロナ対策についての当校の対応方針とハイブリット型授業の実施状況等を具体的に説明し、さらなる理解と協力を要請した。</p> <p>6. 卒業生・社会人 卒業生の状況把握に努め、様々なフォローを行った。夜間コースは、新型コロナ感染拡大防止の観点からオンライン授業を導入して実施した。</p>

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 施設・設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学式中止の決定と同時にオンライン授業の運営に必要な機材を導入した。これにより緊急事態宣言前に概ねの準備が整い、オンライン授業の他に、ソーシャルディスタンスを保った通学授業へ円滑に切り替えていった。 モックアップの精度を上げられるようにするため、OCHABI Creative Studio に 3D プリンターとスタイロフォームカッターを追加設置した。 <p>2. 学外実習、インターンシップ等</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年 5 月に実施される国内文化研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために延期となったが、年度内での実施を計画している。 学校行事の運営を学生実行委員会と協働することで、積極的に行事に参画する意識と社会性を育んでいるが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で行事自体が延期となり、7 月に初めて新入生のみで展示会を企画した。その結果、新入生は通例を知らずとも自分たちがどの様にしたいか考え、行動し、教職員のフォロー体制のもと円滑な運営が実現した。 <p>3. 防災・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模な災害に備えて学生および教職員に対して防災マニュアルの内容を徹底するなど組織・体制をしっかりと整備する。 整備した組織・体制が机上のものとならないよう、避難訓練を定期的に行う。 日常の授業の中での安全管理にも十分配慮し、授業で使用する機器の注意事項の徹底、防犯体制、急病人への対応など、多岐にわたる内容にも対応できるような体制を整備・強化する。 	<p>1. 施設・設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の授業は、新型コロナウイルス感染防止対策として対面とオンラインのハイブリッド授業として運営したが、前期中に整備した WEB カメラやオーディオ機器等を使用することで安定したオンライン授業運営を行うことができた。新型コロナウイルスにより産学連携パートナーが来校できないケースでも滞りなくオンラインでのプレゼン対応が可能となり、学修機会を確保できた。 OCHABI Creative Studio に追加設置した 3D プリンターにより、多くの学生が機材を使用して学ぶことができた。その結果、今期は卒業制作にて商品を 3D プリンターで制作する学生もできた。 <p>2. 学外実習、インターンシップ等</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内文化研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から延期することとし、次年度に実施する予定とした。 新型コロナウイルスの影響等により、本年度はインターンシップや外部での学びの機会が例年より少ない年となったが、産学連携パートナー企業と協力して、在宅でもできる就労体験を提供していただくことができた。 <p>3. 防災・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の防災・安全管理の最も重要な取組課題は新型コロナウイルス感染防止対策であり、昨年の緊急事態宣言期間中は一定期間休校・オンライン授業の実施などで対応し、本年 1 月の緊急事態宣言では感染拡大防止を徹底しつつ対面授業を実行するという方針変更に対応することができた。 消防署の指導で避難訓練は実施しなかったが、避難経路を示した書類配布などを通じて防災に対する学生および教職員への意識付けを図り、避難訓練実施の代替とした。

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 学生募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国規模での本校の支持者・入学希望者の増加を目指し、継続して広報・学生募集活動を実施した。6月まで中断していた高等学校内および一都三県外の会場での進学説明会の代替策として、リスティング広告、WEB媒体の強化、全国で配布される紙媒体への掲載を行った。 ・4月よりオンライン学校説明会を本格導入、6月から再開した対面での学校説明会、体験授業とあわせてハイブリッド型とし実施内容の工夫を行った。更に参加機会を多く提供できるよう、例年よりも学校説明会等の回数を増やして実施した。 <p>2. 入学選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学選考基準・方法、アドミッション・ポリシー等を募集要項、WEBサイトへ明示している。 ・全受験者に対してインタビュー（面談）を実施して、翌年度のカリキュラムや授業方法の改善等に活用している。更に入学後の学生の状況から、翌年度の入学選考の改善につなげている。本年度は、年々増加している留学生の入学後の状況を鑑み、「PBLに対応できる日本語力を有すること」について出願条件の見直しを行った。 <p>3. 学納金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、他校の調査も含め学費等の点検を実施している。保護者・学生の経済的状況からくる負担感に対応し、総合的に見て妥当な水準となるよう設定している。 ・正確な情報で進学先の検討ができるよう、本年度より更に細かい費用も加え、学校で徴収する全ての金額を募集要項やWEBサイトで明示している。 	<p>1. 学生募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響により、進路先の検討において「インターネット」での情報収集が更に高まったため、本校WEBサイトへの訪問者数を増加させる施策として「LINE 広告」を開始した。また、WEBサイト訪問者に知りたい情報への道案内を行う「チャットボット」を新たに導入した。 ・学校案内書をWEB上で閲覧できる「デジタルパンフレット」導入、紙の学校案内書・募集要項・願書等を請求する手間を簡素化する「資料請求フォームの改修」を併せて行った。 <p>2. 入学選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の建学の精神、アドミッション・ポリシー等が広く浸透しており、出願者の本校の志望理由・ポイントで、初めて「グループワークとチームワーク」が最も多い回答となった。 <p>【2021年度入学者選考出願者の志望理由・ポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) グループワークとチームワーク（出願者中 67%） (2) ゼロからはじめる（出願者中 62%） (3) 産官学連携授業（出願者中 58%） <p>3. 学納金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期学納金納入の負担を軽減するために昨年度導入した「早期出願優遇制度」（分納3回まで可能）の利用率は、昨年度 15%、今年度は 12%となり、一定の制度導入効果が確認できた。 ・「御茶の水美術学院（美大・芸大受験予備校）」から「入学者優遇制度」（入学金一部免除）利用による入学者があった。

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 財務基盤 安定した教育環境の提供には安定した財務基盤が必須となる。中長期的に安定した入学者を確保し、収支のバランスがとれた財務運営を実現する。</p> <p>2. 予算・収支計画 短期・中期目標の実現に向けた実行計画を支える予算・収支計画を策定し、その内容に沿って確実に執行する。また、状況の変化に応じて適切で柔軟な対応を行う。</p> <p>3. 監査 半期終了時に上期決算を理事会に報告し、本決算時には理事会・評議員会に報告して審議した内容を監査法人が確認することにより、財務の適切性を確認する。</p> <p>4. 財務情報の公開 文科省のガイドラインや職業実践専門課程で公開を求められている財務情報について毎年ホームページにて更新するなど、学園として継続的な情報公開を行う。</p>	<p>1. 財務基盤 本年度は新入学生が増加していることから授業料等収入は増加傾向にあるが、支出についても新型コロナ感染拡大防止の影響から増加傾向となっている。中途退学者が通常の年より増加しているため、収支バランスを注視していくことが必要である。</p> <p>2. 予算・収支計画 新型コロナ感染防止のための機材・備品購入など、予算計画策定時には想定していない支出が増加したため、予算との乖離が発生しないようきめ細かな現状把握を継続的に実行している。</p> <p>3. 監査 本年度から日常業務の経理処理の正確性・迅速性確保についてアドバイス可能な監査法人と契約し、体制強化を目指して取り組んでいる。10月から3月まで月例打ち合わせを行い、実際の経理処理の具体的な内容を開示して適正な会計処理と経理運営実現のためのアドバイスを適宜受けている。年度末決算業務についてもアドバイスを受ける予定。</p> <p>4. 財務情報の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法改正に伴って明確化された各種情報の公開については、寄附行為にしたがって適切に対応している。 ・職業実践専門課程の基本情報としてホームページで公開している財務情報については、定期的に更新するなどの対応を適宜行っている。

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 関係法令、措置基準等の遵守 学校運営に関わる法令は多岐にわたるため、設置基準など学校運営に直接関わるものからパワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどのコンプライアンスに関するものまで網羅して周知と遵守を徹底していく。</p> <p>2. 個人情報保護 教職員等の保有する志願者・学生・卒業生などの個人情報を保護法に基づいて適正に対処する。特に大量の個人情報の取扱いについてはより一層注意深く運営する。学生・教職員に対してきめ細かな啓発教育を行う。</p> <p>3. 学校評価 ・学校運営・教育活動の一層の質の向上・確保のために自己点検・自己評価を毎年実施する。その結果に基づいて課題改善に取り組み、このサイクルを毎年確実に実行する。 ・学校関係者評価委員会の運営・体制を整備して適正に評価を実施し、課題改善のサイクルにつなげる。</p> <p>4. 教育情報の公開 財務情報と同様に教育情報についても積極的に公開する。</p>	<p>1. 関係法令、措置基準等の遵守 ・講師服務規程の中にコンプライアンス規定を明記し、授業を委嘱する際に承諾書を提出させて遵守を書面で確認している。本年度は新型コロナ感染拡大防止のため講師服務規程を直接説明する指導方針会議の開催はなかったが、書面を配布して承諾書を提出する形で徹底した。 ・服務規程の最後に、総務部をコンプライアンス相談窓口の連絡先として明記して窓口の周知を徹底した。</p> <p>2. 個人情報保護 ・職員に対して、個人情報保護規定とプライバシーポリシーをサイボウズの教職員連絡事項フォルダーに登録して徹底を図っている。 ・講師に対しては、服務規程に個人情報の守秘義務、学校情報の守秘義務を記載し、承諾書を毎年提出させることで意識付けを図っている。 ・個人情報変更時に変更内容を提出させ、最新情報を保つよう継続的に働きかけている。</p> <p>3. 学校評価 ・本年度も学校関係者評価委員会を2回開催し、委員からいただいた意見・助言等を学校として受けとめて学校運営の改善に反映させている。また、委員には対応状況を次の委員会でフィードバックしている。</p> <p>4. 教育情報の公開 ・職業実践専門課程の基本情報公開のため、教育情報について定期的に更新するなどの対応を適宜行っている。 ・私立学校法改正に伴って明確化された各種情報の公開については、寄附行為にしたがって適切に対応している。</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人を対象とした「デザインアートコース（夜間/社会人・学生対象）」は、上半期は新型コロナ感染拡大防止の観点で中止していたが、受講の要望も多く、下半期は「ロジカルデッサンTM」にてオンライン授業を取り入れ、開講した。現在、企業研修での参加も加わって、それぞれの業務や立場に還元できる思考法やチームワークの修得、情報の可視化や整理法、プレゼンテーション機会の提供などを行っている。 ・高校教員向けの対面での研修は中止していたが、後期は「プロジェクトベースドラーニング研修」として、回答のない問題への取り組みについてのカリキュラムの研究とオンラインでの研修実施を検討中。 ・地域の企業で前期のクライアント役を務めていただいた富士印刷から、学生の提案力に着目され、営業促進となる映像制作や販促グッズの提案に、学生有志で取り組むこととなった。 <p>2. ボランティア活動</p> <p>現状では人出の多い場所への参加を自粛しているため、本年度のボランティア活動への参加が困難な状況である。</p>	<p>1. 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「デザインアートコース（夜間/社会人・学生対象）」は、新型コロナの影響により前期は休講としたが、後期は感染症拡大予防を徹底しつつ開講した。秋季はデザインアート思考[®]、ロジカルデッサンTM、グラフィックスキルの3講座を開講し、過去最高の受講者数となったが、受講者からは特にデザインアート思考が大変刺激になったとの感想をいただいた。冬季は期の途中で緊急事態宣言が再発令されたが、対面授業を中止することなく柔軟な対応を行い、最後まで開講した。 ・千代田区の産学連携パートナー企業である富士印刷のプロモーション映像制作を3学年5名の学生がチームで取り組んだ。富士印刷の新年挨拶のプロモーションを展開した結果、取引企業から好評を博しているとの報告があった。現在、1～2年生が同社の営業推進用自己紹介カードの制作を依頼され、5名が制作に携わっている。 <p>2. ボランティア活動</p> <p>新型コロナの影響により外部との接触が制限されている状況のため、本年度はボランティア活動を自粛した。今後は、感染防止対策を徹底しながら、本校の学生が得意とするビジュアルを使ったボランティア活動がないか、引き続き情報収集を続けていく。</p>